

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2024年9月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2024年9月9日～9月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 128社
- 回収率 64.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の9月の状況を見ると業況DIは、前月より5.5ポイント悪化の▲24.2となった。

2017年9月以来85ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲22.6、当月と比べ1.6ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

| | 2024年 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 先行き見通し 2024年10月～ 2024年12月 |
|------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|---------------------------------|
| 業況 | ▲22.3 | ▲22.2 | ▲35.3 | ▲24.4 | ▲18.7 | ▲24.2 | ▲22.6 |
| 売上 | ▲18.0 | ▲25.7 | ▲19.6 | ▲17.8 | ▲12.3 | ▲18.8 | ▲13.3 |
| 採算 | ▲18.0 | ▲25.7 | ▲35.4 | ▲27.4 | ▲24.5 | ▲25.0 | ▲24.2 |
| 仕入単価 | ▲64.7 | ▲65.0 | ▲64.6 | ▲61.5 | ▲57.6 | ▲60.9 | ▲51.6 |
| 販売単価 | 35.2 | 26.4 | 36.0 | 35.6 | 31.0 | 27.3 | 22.6 |
| 従業員 | 38.9 | 35.0 | 35.3 | 31.8 | 31.7 | 31.3 | 32.8 |
| 資金繰り | ▲12.3 | ▲12.2 | ▲17.3 | ▲11.9 | ▲13.0 | ▲15.6 | ▲12.5 |

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

| | 2024年 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 先行き見通し 2024年10月～ 2024年12月 |
|------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|---------------------------------|
| 建設 | ▲33.3 | ▲25.8 | ▲50.0 | ▲35.5 | ▲35.5 | ▲29.0 | ▲25.8 |
| 製造 | ▲27.8 | ▲25.7 | ▲42.4 | ▲29.4 | ▲22.8 | ▲36.7 | ▲30.0 |
| 卸売 | ▲3.3 | ▲3.3 | ▲17.3 | ▲20.7 | 3.2 | ▲3.4 | ▲10.4 |
| 小売 | ▲25.0 | ▲30.0 | ▲38.1 | ▲20.0 | ▲21.0 | ▲16.6 | ▲16.7 |
| サービス | ▲21.7 | ▲29.2 | ▲27.3 | ▲9.6 | ▲17.4 | ▲35.0 | ▲30.0 |

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

| | |
|-------|---|
| 建設業 | <ul style="list-style-type: none"> ・諸物価高騰で民間建設投資の冷え込みが進み、民間建築も需要減退が低価格競争を招かないよう願っている。（総合工事） ・新築戸建てを中心に減少が続く、先行きが見えない。緊縮財政を主張する新しい首相が選出される見込みであるが需給ギャップは10兆円と言われる状況なので、景気の活性化に向けて対応を期待したい。（設備・その他） ・受注が伸びず資金繰り状況が悪化しているなか、追い打ちをかけるように本年11月から下請法による手形サイトの60日制限が開始され、さらに資金繰りが厳しくなることが予想される。（建築業） |
| 製造業 | <ul style="list-style-type: none"> ・農産物の収穫が本格的になった。収穫量は平年並みであるが、今後の天候により左右される。10月からは最低賃金値上げも控えているので悩みがまた増える。（食料品） ・売上高が前年対比で増加しているが、コロナ前に比べると大きく減少している。（家具・木材） ・原木の集荷が悪い。人員の募集をしているが応募が無い。（家具・木材） ・受注競争の激化により単価が厳しさを増している。（金属窯業他） |
| 卸売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・秋から冬にかけて水産物の商流が活発化される季節ではあるが、本年は通年と違い漁獲量が著しく減少傾向。特に全道で水揚げされる秋鮭は漁獲量大幅減・価格高騰となっており、スーパーの特売に影響が出ている。顕著なのが生筋子の異常高騰でイクラは相当な値上がりを見せると思われる。一般的に水産物は漁獲減・価格高が続く年末商戦に大きな影響が出る見込み。（飲食料品） ・今期総体の売上（契約額）は増加したが現在、工事・各事業の完了を控え売上の入金までの資金繰りについて若干厳しい。（機械鋼材） ・当月の業況については、前年同期と比べ横ばいで推移。主力商品のビニールハウスやその部材の動きが鈍く肥料の販売に注力している。年後半に向けて持ち直すと見られるも、事業計画よりやや下回る数字で着地するものと思われる。（その他） ・灯油の仕入値は小幅に上昇しているが、販売単価は据置。（その他） |
| 小売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・9月に入り残暑が続いている。今期秋冬物商品が入荷し店内は衣替えのシーズンを打ち出しているが、気温がまだ20℃台。夏物で過ごせるようで、来店客が少なく厳しい状況。（衣服身回品） ・市内競合店開店の影響はあるが、解消されつつある米不足による需要高が減収を抑えている。米需要一服時減収の懸念あり。（食料品） ・10月から最低賃金の改定や郵便料金の値上げがあり、販売コストが大きく増加する。迅速な価格転嫁の必要があり、見直しが迫られている。（その他） ・新型車の投入や中古車市場の活況により、今月の売上・粗利は前年同月比で増加する見込み。しかし、仕入価格の高騰や賃上げの影響による費用の増加により収益は悪化すると見ている。（自動車） |
| サービス業 | <ul style="list-style-type: none"> ・人員不足。スキマバイトは埋まるが長期をみると媒体に掲載してもなしのつづて。売上の減少の見込み。当月は3連休が2回あり期待したが、思いのほか外れた。（理美容・クリーニング） ・相変わらず仕入れ価格やエネルギー費が高止まり。何とか宿泊単価を上げて採算を維持。（ホテル・旅館） ・海外資本による、別荘地やホテルなどの建設計画が増加している。（その他） ・特に10月から、原価上昇や賃金の引き上げ。（飲食） ・燃料価格の高止まりはあるものの、地道なコスト削減効果が出てきた。秋からの人の移動量増加に期待。資金面での不安がますます大きくなっていくのがこれからなので大変。（運送） |

旭川市の産業別概況

| 産業 | 概況 |
|-------|---|
| 建設業 | <p>売上 DI16.1 ポイント悪化、採算 DI6.5 ポイント改善、仕入単価 DI16.2 ポイント悪化、販売単価 DI 横ばい、資金 DI6.5 ポイント改善、従業員 DI6.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、建築業横ばい、総合工事 7 ポイント、設備・その他 10 ポイント改善となった。大工・現場管理者の不足により工程の遅れがある。大工に関しては外注で何とか回している状況との声も寄せられている。</p> |
| 製造業 | <p>売上 DI11.9 ポイント悪化、採算 DI17.1 ポイント悪化、仕入単価 DI3.3 ポイント悪化、販売単価 DI3.7 ポイント改善、資金 DI11.4 ポイント悪化、従業員 DI11.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 13.9 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 3 ポイント改善、印刷・出版 10 ポイント、家具・木材 11 ポイント、金属窯業他 28 ポイント悪化となった。若手の不足との声も寄せられている。</p> |
| 卸売業 | <p>売上 DI17.0 ポイント改善、採算 DI0.5 ポイント悪化、仕入単価 DI6.4 ポイント改善、販売単価 DI7.4 ポイント悪化、資金 DI0.7 ポイント悪化、従業員 DI12.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.6 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等、食料品横ばい、機械鋼材 11 ポイント、その他 16 ポイント悪化となった。前年度から比べると若干の売上増にはなっている。経費高騰が売上単価上昇スピードを上回っている感じがあるとの声も寄せられている。</p> |
| 小売業 | <p>売上 DI4.1 ポイント改善、採算 DI20.2 ポイント改善、仕入単価 DI8.2 ポイント悪化、販売単価 DI9.2 ポイント悪化、資金 DI10.3 ポイント改善、従業員 DI14.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 4.4 ポイント改善となった。業種別では、衣料品、食料品横ばい、その他 13 ポイント、自動車 3 ポイント改善となった。来店者数が少し増えてきており、記念品の引合いも増えてきたとの声も寄せられている。</p> |
| サービス業 | <p>売上 DI25.7 ポイント悪化、採算 DI3.2 ポイント悪化、仕入単価 DI5.2 ポイント改善、販売単価 DI9.8 ポイント悪化、資金 DI18.3 ポイント悪化、従業員 DI2.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 17.6 ポイント悪化となった。業種別では理美容・クリーニング、ホテル・旅館、その他、運送横ばい、飲食 25 ポイント、整備業 80 ポイント悪化となった。労務費等のコスト増や価格転嫁との声も寄せられている。</p> |